

会社と従業員、家族の心をつなぐ『ドウシン』 「ミニユニケーションツールとして さらなる進化と深化に期待！」

代表取締役社長 藤田 晴哉



「ドウシン」第1200号の発刊、誠におめでとうございます。

00年以上にわたり、企画・編集・写真撮影・印刷などに携わられた、歴代全ての編集スタッフ、関係者の皆さま方のご努力に改めて深く敬意を表します。
ドウシン（当時は「同心」）がありましたが、父が掲載された記事を母がうれしそうに見せてくれる以外には、自分から目を通してすることはありませんでした。しかし、父に連れて行つてもらつた社内旅行の記事で自分が体

験したことも紹介された文章を読んで、旅行の思い出がフラッシュバックすると同時に、自分も社内報に登場しているような不思議な気持ちで子ども心に感動したことを覚えており、ドウシン企画に登場されたご家族の方も、きっと同様の感動を味わつておられるのではないかでしょうか。

入社後は、家族読者から実参加者となり、「海外出張こぼれ話」、「お邪魔虫」、「職場探訪」や各種座談会などに何度も登場させていただき、2012年9月の発刊1100号記念号では、役員プロフィール紹介記事で家族が写真デビューし、私が掲載されたドウシンは妻や子どもたちとのミニユニケーションツールに活用いたしました。社長就任後は、入社式や新年祝賀式での会議題が大きく変化しており、

菅方針、D&I宣言に関する記事などを通じて、社長としてのメッセージがグループ従業員のみならず、社外へ少しでも伝わることを願っております。

「ドウシン」は、2012年4月号より国内グループ各社の従業員の皆さんにも配布しております。実は、私が化成品業務部長を拝命していた2011年に、当時の事業部長と関係会社を訪問した際、従業員の方がドウシンを読んで、ないことに気付かれ、「グループ経営の時代やのに、関係会社にはなんで出向者の分しかドウシンを配らへんのや？」と言われた際に、何とかせりや」と言われて人事部にお願いした結果、皆さんにも配布されるようになりました。そして、現在ではグループ会社の方々もさまざまな企画に積極的に参画され、毎号約4000部が印刷されるという隠れたベストセラー誌となりました。そこで、過去1200号の全てはデジタルアーカイブとして保存され、クラボウ記念館などで閲覧が可能です。

当社グループもさまざまな変革に大胆に挑戦し続けるためには、改めて諸先輩方の創意工夫や熱意、その基盤となる創業以来築き上げてきた企業文化を学ぶことが大切であり、そのツールの一つが100年超にわたり受け継がれてきたドウシン（同心）になります。そして、グループ全体での情報の共有化やコミュニケーションの活性化を図り、企業および従業員同士や家族との一体感を高めることで当社グループが一層飛躍できるよう、「ドウシン」の今後ますますの進化と深化、新たな企画の登場を心より期待しております。

▲役員プロフィール 藤田晴哉 取締役

▲役員プロフィール (2012年9月号)